

地域で学び、地域と共に歩む松本大学の今。

松本大学学報

sokyu
蒼穹

2024.3 Vol.154



「あるぷすタウン」を5年ぶりに開催！（詳しくはP.10をご覧ください）

特集

「松本大学令和変革プロジェクト (Matsumoto University Reiwa-X-Project:MUR-X-Project)」 に関する報告

- 菅谷昭学長退任にあたって P.04
- 大学院健康科学研究科、本学初の博士を輩出
総合経営研究科一期生も修了 P.05
- 令和6年能登半島地震の被災地を調査して
—長野県が学ぶべき防災の教訓— P.09
- 過去最多となる延べ150社の企業が参加 学内合同企業説明会を実施 P.12 ほか

「松本大学令和変革プロジェクト (Matsumoto University Reiwa-X-Project:MUR-X-Project)」 に関する報告

松本大学は2022年度に創立20周年を迎え、これまで「地域貢献」を基本理念に掲げ、地方の私立大学として一定の成果をあげ、全国的にも評価されてきました。ただその一方で、現今、大学運営面などにおいて、とりわけ私立大学では国からの教育政策方針を始めとし、多岐にわたる通達への現実的対応が突き付けられており、本学においても同様の状況にあります。

そこで松本大学としては、独自色に富み、更なる飛躍発展を図るため、2023年度の事業計画において本プロジェクト（ムルクス プロジェクト）を立ちあげました。この変革プロジェクト会議では、現在本学が直面している諸課題に対し、全学的ならびに学部・学科単位における視点の下、重点的かつ多角的に討議を重ね、受験生にとりより一層魅力のある地方大学へと転ずる大学変革の道筋をつけるべく、極めて重要なプロジェクトと位置づけて設置したものです。

全学のおよび4学部の解決すべき課題に関する検討経過については、各担当者による以下の報告内容をご覧ください。

松本大学 学長 菅谷 昭

本学の更なる飛躍発展に向けて大学変革の道筋をつける

総合経営学部

これまで組み重ねたノウハウと 時代の変化を見据えた関わりを

総合経営学部 学部長・教授
尻無浜 博幸

本プロジェクトの主要検討項目の一つに学部・学科の入学定員・再編等があります。本学部は定員に対してKPI1.2を確実に仕上げるのが目標でした。入学者の動向が大きく変化する中で難しい舵取りが強いられましたが、一般選抜C実施前に達成できたことは、これまで学部で責任をもって組み

重ねたノウハウが大きいと思います。入学定員を必ず確保していくことは今後も学部の最優先項目です。そのための学科改編は常に検討課題としています。

また、「企業・大学連携室」を拠点に地元企業との結びつきの強化をフルに活用してきました。松本商工会議所と中小企業、人

材のマッチングの情報を活用した取り組み、アルピコHDからの寄付講座、リカレント教育のあり方の検討などこの取り組みによって、教育、研究、実践の環境整備が拡がりつつあります。しかし、企業連携の切り口は多岐にわたります。時代の変化を見据えた関わりをさらに進める必要があります。

※KPI:重要業績評価指標

人間健康学部

学部・学科の更なる発展に向けた 重点項目への取り組み

人間健康学部 学部長・教授
根本 賢一

ムルクスプロジェクトの中で、皆様から頂戴した数々のご指摘は、本学部・学科の更なる発展に向けて貴重な示唆となりました。

今後の展望として、以下の取り組みを重点的に推進してまいります。

文字数に制限がありますので全ては記載

できませんが、これらの取り組みを通じて、学部の更なる発展と地域社会への貢献を果たしてまいります。引き続き、皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

- ★コースの特性を明確にし、学生の興味や将来のキャリアに適した選択ができるよう努める。同時に、業界とのネットワークを通じて、学生に魅力的なキャリアパスを提供する。
- ★出張型オープンキャンパスの実施により学部への関心を高めるとともに、指定校枠と指定校基準の見直しを行う。
- ★企業や団体との連携を一層発展させて、食品開発や共同研究を推進する。
- ★地域防災科学研究所と連携して非常食・保存食の開発を行う。
- ★「山岳とスポーツ」、「ヘルスフィットネス」を2024年度入学生のカリキュラムに配置し、アウトドアスポーツ(登山ガイドなど)の指導者養成とダンス系の学びを開始する。



本プロジェクトの検討内容を今後の学部運営に反映

教育学部 学部長・教授
秋田 真

会議において本学部に関わる所では、年初より入試改革等を中心に話し合いが持たれました。本学を取り巻く様々な観点より、出席されている方々から多くの意見を

頂き、大変感謝申し上げる次第です。特に学部長初年度であったため、学部長会議を含むこのような会議の場での、出席者からのアドバイスは非常にありがたく感謝して

おります。また、ムルクスプロジェクトにおいての検討内容については、随時、学部運営に反映させて行く所存です。

2025年度の学生募集に向けて

松商短期大学部 学部長・教授
浜崎 央

ムルクスプロジェクトでは、学生募集に対する行動計画および複数学部との連携も視野にいたれた中期変革計画を議論してきました。その中で短期大学部では定員



確保を目指し、①新たな高校訪問や出張型オープンキャンパスの実施、②学内のオープンキャンパスの充実、③松商学園高校との連携（商業科全学年の短大体験や5か年計画の推進に向けた議論）、④その他商業系の高校との高大連携授業の4点を計画し実施してきました。また、中期的な変革計画においては、他学部との連携についても議論が進みましたが、当分の間は現状維持で考え、定員減も含めて継続的に検討していくこととしています。残念ながら

ら次年度の定員確保も厳しい状況ですが、2025年度の学生募集に向けて、①高校時の上位資格取得者に対する新たな特待生制度の導入、②入学後の意欲を図る新たな入試制度の導入、③専門学校に進学する層にアピールする新たなフィールドの開発、④入学定員を確保している全国の短大の視察などを計画しています。少子化や高校生の4年制大学志向など、短大の入学定員の充足には厳しい状況が続きますが、定員確保に向けて全力で取り組む予定です。

高年次教養教育の導入と寄付講座の開設

大学院健康科学研究科・健康栄養学科 ムルクスプロジェクトメンバー 教授 木藤 伸夫

2023年度の事業計画で示された松本大学令和変革（MUR-X）プロジェクトの8つの主要検討項目のうち、「一般教育体制の充実強化」を主として担当したので、検討内容を報告します。

2022年に行われた卒業生の進路先（就職先）企業に対するアンケートで、本学卒業生が修得している能力として「一般的な教養」を挙げた企業が半数以上となり、本学の教養教育が学生の就職先において一定の評価を得ていることがうかがえました。しかしその一方、他大学の学生との比較ではその評価はやや低くなり、加えて主体性・実行力、リーダーシップなどの能力不足が企業から指摘されました。松本大学で行われている共通教養教育は、専門を学ぶための基礎力の修得に加え、幅広い知識を身につけて自律的で自主的な学びの姿勢を身につけることを目的としています。本学カリキュラムポリシーの柱でもあるこの学びを充実させることで、不足しているといわれる能力の向上

が可能になると思われま。そのための一つの方法として、近年新たな教養教育として国立大学などで始められている高年次教養教育の導入を検討することにしました。現在開講されている共通教養科目の内容を精査・整理し、専門科目を受講するための基礎としての科目と、専門科目履修後に自身の専門領域が他の学問領域とどのように関わっているか、あるいは社会の中でどのような位置づけにあるかなどを考えるきっかけとなる科目に分け、前者を初年次教養科目に、後者を高年次教養科目に位置づける見直しを提案しました。教養を身につけた人とは、幅広い知識を身につけるだけでなく、それらの知識を有機的に結びつけて活用し、自らの人格を形成する努力を続ける人です。本学卒業生が、社会に出た後も積極的に知識を吸収し、人格者としても評価されることを期待して検討を進めて欲しいと思います。

さらに、新しい試みとして寄付講座の開設についても検討したので併せて報告しま

す。本学はこれまでも様々な地域連携活動に取り組んできましたが、新たな形態の取り組みとして寄付講座の開設を行うことにしました。地域企業に本学での教育に参画していただき、学生と接する機会を増やすことが目的です。学生にとっては地元企業の取り組みや企業理念等を詳しく知る機会ができて、企業にとっては学生への積極的なアプローチにより有為な人材採用が可能になるという利点が考えられます。早くもアルピコ交通株式会社から寄付講座の開設が提案され、示された講義案内容から総合経営学部での開講を検討してもらっています。地方における新たな産学協同の一つの形態として、定着、継続していくことが期待されます。



菅谷昭学長退任にあたって

2020年10月より学長として3年半のあいだ、本学の発展に尽力された菅谷昭学長が今年度をもって任期満了により退任いたします。ここに菅谷学長からのご挨拶を掲載させていただきます。

3年半を顧みて

松本大学 学長 菅谷 昭

私は2020年10月1日、松本大学ならびに松本大学松商短期大学の学長に就任致しました。実は、このお話をいただいた際には大きな驚きを感じ、固より浅学菲才の身、加えて教育分野の専門家でもなく、自分にとり誠にもったいないお話でお断り申し上げた経緯がございます。ただ大変強いご要請をいただきましたので、これも運命かと思ってお受けしたところでございます。

さて、私が松本大学に身を置くことになり、それではいかなる大学を創っていきたいか。そこで「大学づくり」の主たる努力目標として以下の2点を考えました。

- ① 小さな事業でもよいから、「地方から国を動かす」ことができる“知の拠点”をめざす。
- ② 「会話」のできる学生を育てる。そのためには、自らが選択する専門分野における知識のみならず、より広い視野および自信と積極的な行動力を身につけさせる。

しかし、実際に学長職に就いてみると、大学の運営体制やシステム上、思い通りに事を運ぶには極めて難しい事情があるものと判り、誠に残念に感じた次第であります。また、この大学で学長として教員や事務系職員との集合する場で、自身の考えや抱負を述べる機会は限られており、基本的には年度始めの合同教授会においてのみであることも判って参りました。

ここで、在任期間中において、私が合同教授会で申し上げた話の極々一部を記述させていただきます。

2021年度では、急速進展する若年世代の人口減少に鑑み、「松本大学自身の経営および盛衰にも大きくかわり、加えて教職員の方々の経済・生活問題にもかかわってくることは否定できない」(略)「地方における私立大学の“生き残り”をかけて挑戦する気構えが求められる」。また2022年度に

は、松本大学の組織管理体制について、「総体的に精度疲労や硬直化を起しつつあると危惧する」(略)「“これはまずいのではないかと”判っているけれど、“後まわし”にしている、即ち“先送り”しているのではないかと」。そして2023年度においては、松本大学令和変革プロジェクト(MUR-X<ムルクス>プロジェクト)の立上げに関して、「本学の運営課程における諸課題に対し、全学的ならびに学部・学科単位の視点の下、重点的に検討を重ね、受験生たちに選ばれる、“より魅力のある地方大学”へと転ずる、大学改革への道筋をつけるために設置する」としています。このように3年半を通じ、私自身が大学運営に主体的にかかわれたのは本事業のみであり、最後の1年間だけでした。

なお、関係する教職員の皆様方のご尽力による事業としては、学生主体のサークル「平和創造研究会」の結成、全学的な活動と

しての「松本大学健康首都会議」の開催(毎年開催を決定)、学生主体による「三大学学生交流課題研究会議(松本大学、札幌大学、鹿児島国際大学)の立ち上げ(持ち回り開催)」、「リカレント教育講座」の開講、産学連携事業の実現など、具体的に展開することができたことはありがたく、ここに改めて深く感謝を申し上げます。

最後に、私自身、本学において十分力を発揮することができず忸怩たる思いではありますが、地方大学、とりわけ中小規模の私立大学の存在意義は、大規模な大学と同様の国主導によるスタイルに追随するのではなく、独自色に富む小粒でもキラリと光る高等教育機関が求められ、それこそが生き残ることが可能な大学であり、併せて地方から国を動かす能力を有した教育機関であるものと、改めて痛感したところであり、“未だ途上にある”松本大学が今後そのようであって欲しいと強く願う次第であります。



学長と学生有志が平和について学ぶ勉強会がスタート(2021年5月)



今年度も大盛況だった「第2回松本大学健康首都会議」(2023年11月)



学長就任後、学生たちに初講義(2020年11月)



第1回「三大学学生交流課題研究会議」は本学を会場に開催(2022年9月)

大学院健康科学研究科、本学初の博士を輩出 総合経営研究科一期生も修了

専門的な知識を活かし社会での活躍に期待

健康科学研究科は、修士課程から博士課程への課程変更が認可され、2021年4月に松本大学初となる博士課程が誕生しました。この健康科学分野に加え、現代の経営課題の解決に寄与できる人材養成をめざして、総合経営研究科修士課程が2022年4月に設置され、この度、健康科学研究科博士後期課程の一期生をはじめ、博士前期課程、総合経営研究科一期生による、研究の集大成となる博士・修士論文審査発表会が行われました。

多岐にわたる興味深い研究内容 初めての博士・修士論文審査発表会

健康科学研究科 研究科長・健康栄養学科 教授 山田 一哉

大学院健康科学研究科は、3年前に修士課程から博士課程に課程変更を行い、今年度完成年度を迎えました。今回は、博士前期課程(旧修士課程)4名、博士後期課程1名の研究内容が発表されました。とくに、博士論文の研究発表は初めてでした。健康科学研究科は、ひとびとの健康の維持・増進に関し、基礎研究から実践研究、自然科学的研究から人文・社会科学的研究まで幅広い研究領域を扱っています。今回の発表もこれらに即し、実に多岐にわたる興味深い内容でした。院生には大学院での研究経験を生かし、今後のそれぞれの分野での活躍を期待しています。



博士論文

発表者	論文タイトル
成瀬 祐子	幼児期・学童期における給食の教育的価値

修士論文

発表者	論文タイトル
倉澤 里奈	神奈川県湯河原町の青年期および壮年期における肥満と生活習慣に関する研究
藤原 里恵	乳児期に保護者が実施した離乳食への対応と3歳児期における食への困り事との関連
水澤 葵	中央競技団体におけるスポーツ組織マネジメントの実態 -スケート・スピードスケート-
矢島 優己	マウスにおける咀嚼能力と全身運動機能の関係

院生たちの研究発表に白熱した議論が展開 研究成果の実社会での活用を期待

大学院総合経営研究科 研究科長・観光ホスピタリティ学科 教授 増尾 均

大学院総合経営研究科は、今年度で2年目を迎え、大学院生4名を最初の修了生として輩出しました。その大学院生が2年間にわたって研究した成果を発表する修士論文審査発表会を2月9日に開催しました。どの大学院生の研究テーマも現代社会が抱えている喫緊の課題であり、大変興味深いものでした。当日は、教員から質問・意見が多数出され、また、それに対する院生の適切な応答がみられ、予定時間を大幅に超える白熱した発表会となりました。コロナ禍の影響が残る中での現地調査など、さまざまな苦労を余儀なくされたことも合わせ考えると、大学院生の努力を称えたいと思います。今後、修士課程の2年間の研究成果、ならびにその過程によって身に付けた諸能力を実社会で活用していただけるものと期待しております。



発表者	論文タイトル
北澤 量弘	中小企業に於ける経営理念の浸透条件とは何か ～「株式会社まくらや」に見る中間管理職を事例として～
清水 泰志	介護・福祉施設、事業所におけるBCP策定の現状と有用性に関する考察 —BCPからDCPへの転換を展望する—
中村 拓磨	地域の持続的発展を支えるゲストハウスに関する研究 —長野県南信州地域を事例に—
藤田 達也	災害時コミュニティ放送の使命と役割 —実態の検証と展望—

また、本研究科では、新年度に向けて、社会および学生のニーズを基に授業科目の見直しを行い、新たな科目を設置するなど、より魅力ある研究科づくりのため、カリキュラムの再編を行いました。本研究科は、本学が掲げる建学の精神と基本理念はもとより、目的・使命に則り、企業・団体を的確かつ効率的に経営するための専門知識と技能を身につけ、地域社会の発展方向を踏まえて一般企業をはじめ各種団体が抱える経営課題の解決に寄与し得る職業人を養成し、社会に貢献することを目的としています。今後、さらに探求心を尊び向学心があふれる人材を引き付けられる場になるように邁進していきたいと考えています。



卒業研究・卒業論文発表会

学部生、短大生が専門ゼミで取り組んだ卒業研究の集大成として、各学部、学科において「卒業研究・卒業論文発表会」が開催されました。誌面の都合上、口頭発表者の研究テーマのみの掲載となりますが、ポスター発表を含め学生たちの研究内容は多岐にわたり、聴講していた教員や学生からも活発な質疑応答が繰り返され、充実した発表会となりました。

総合経営学部

全員が口頭発表を行いました。

総合経営学科 (口頭発表:76題)

氏名	ゼミ	卒業研究テーマ
小穴 和也	古川	林業における人材の確保とその教育―緑の雇用が与える影響―
児玉 哲汰	古川	海浜利用をめぐるローカルルールの特徴―神奈川県自治体の事例―
高尾 剛也	古川	地方自治体におけるポケモンロケールActsの利用可能性と課題
滝澤 光基	古川	諏訪市における駅前再開発とその展開
竹之内 勇志	古川	松本市における子育て支援事業計画の展開とその課題
中平 秀喜	古川	諏訪・岡谷地域における製造業の構造変化に関する要因分析
横矢 明大	古川	日本における大手フィットネスクラブの店舗展開の比較―立地・サービスに着目して―
濱 優樹	古川	プロサッカーチームのホームタウンの広域化と活動の展開―松本山雅FCを事例として―
百瀬 空舞	岡崎	地方における過剰インフラ開発の現状と課題―中部縦貫自動車道・松本波田道路の事例―
神戸美乃里	岡崎	地方のコミュニティラジオ局が直面する経営課題―上からの「周波数改革」と防災の視点から―
小林 駿太郎	岡崎	これからの地域社会の振興策において野球が果たせる役割とは?―「奢侈」なスポーツという課題をふまえて―
小竹ノ入 蓮	岡崎	
武宮 祐渡	岡崎	
宮崎 将人	岡崎	
勝野 諒哉	岡崎	地方社会における「グローバリ化」の意識に関する一考察―戦後の日中関係史に位置付けられた中国とは?―
大澤 飛鷹	佐藤	貨幣供給量の変化と景気循環
北澤 敦	佐藤	実物的景気循環における不動産価格の変動
北澤 和真	佐藤	技術ショックが日本経済に及ぼすデフレーションの影響
小林 奏太	佐藤	外国金利の上昇による国内経済への影響
瀧澤 蓮	佐藤	総需要の変化が引き起こす景気循環のメカニズム
樽澤 宏幸	佐藤	企業の価格改定頻度の違いが金融政策の運営に及ぼす影響
山崎 彩葉	佐藤	増税と景気循環
入山 蒼生	佐藤	イッパブ克服に向けて
田中 蒼巳	矢崎	人間が持つジャブについて
内夏 夏	矢崎	わかりやすく・楽しい高校簿記―生徒が楽しいと感じる授業の特徴とは?―
鈴木 孝政	矢崎	心理的ストレスの効果的解消法
樋口 愛唯	矢崎	大学生とストレス
村上 晴香	矢崎	ストレスを感じた時に普段と同じ音楽を聴くと、普段と違う音楽を聴く人に違いはあるか?
百瀬 春	矢崎	兄弟姉妹構成と対人関係
横水 颯介	宇都	SNS利用時間と自己調整学習の関係
北澤 拓弥	宇都	マーケティング経験年数別被験者に対する練習方法の提案―フィードバックの有無と方法によるデータの取束を活用した検討―
溝口 あみ	宇都	漫画やスマートフォンゲームの原作特徴と二次創作の物語内容特徴との関係―主人公性別と物語ジャンルに注目して―
堀内 裕奈	宇都	余暇活動パターンと消費の志向性は大学生の主観的幸福感に影響を与えるか?
梅井 隆晴	宇都	政治態度と個人のジレンマゲームにおける戦略選択との関係
金沢 茉莉花	宇都	母親から子どもへのネグレクト・マルトリートメントと大学生における社交不安との関係
島田 康平	宇都	ソーシャルスキルと内発的動機との関係に関する研究―アルバイトのモチベーションを向上させるには?―
小出澤 幸汰	宇都	商品写真の背景色が商品評価と購買意欲に与える影響―商品と背景色の温度感一致に着目して―
今井 佑季	宇都	大学生の自己受容性と容姿志向性の関係性―性別によって関係性は異なるか?―

観光ホスピタリティ学科 (口頭発表:51題)

氏名	ゼミ	卒業研究テーマ
藤森 千幸	尻無浜	子どもの居場所づくりと公営住宅のあり方について―並柳団地の事例から―
田原 愛未	尻無浜	
三島 可媛	尻無浜	
藤井 康聖	尻無浜	
逸見 海斗	尻無浜	
米澤 郁弥	尻無浜	
赤羽 泰輔	尻無浜	
猿田 朱里	尻無浜	住民互助組織と移動支援のあり方について―放光寺町会おひさまタグシーの取組みから―
山本実寿季	尻無浜	
青木駿太郎	尻無浜	
田幸 将吾	尻無浜	
小林 誠	尻無浜	気候変動と災害の関連性について―防災教育への取組みを中心に―
塚本 強矢	尻無浜	
浅野真佑	向井	知ることと命を繋ぎ守る地域防災
小堀 原枝	向井	
赤堀 早紀	向井	ソーシャル・キャピタルを生み出す公共施設の在り方
曾根原ゆか	向井	
本山 淨也	向井	松本パルコの撤退とこれから
工藤 誉	向井	
小林 莉奈	向井	上土商店街の移り変わりから考える商店街の展望
原山 泰成	向井	映画ポスターにおけるキャッチフレーズの役割について―テキストマイニング分析による考察―
小出 香帆	向井	絵本の読み聞かせの可能性
堀内 涼真	向井	近年における野球人口減少の課題解決
小玉 杏那	向井	長野県における派遣社会教育主事制度に関する研究―一松川町に派遣された坂本正夫氏を事例として―
工藤 太陽	田開	地域愛着を醸成する「地域の学び」に関する研究―長野市中条地区を事例として―
小林莉彩子	田開	演劇を通じた公教育に関する一考察―トプロジェクトプロデュース「風を打つ」を事例として―
野田 恵梨香	田開	持続的発展を支える土産物店に関する研究―どのようにしてコロナ禍を乗り越えたのか?―
斎藤 光大	田開	スポーツツーリズムと地域の在り方―モータースポーツ都市宣言鈴鹿市を事例として―
城 拓海	田開	聖地巡礼と地域活性化に関する研究―白川郷における「ひぐらしのなく頃に」を事例として―
山崎 輝一	田開	VRを活用した教育実践の意義に関する研究―VR視聴システムの開発と成果―
信樂 大	田開	
太田 歩夢	田開	
田中 駿	中澤	乗鞍高原を持続可能な観光地域へ
宮澤 広武	中澤	
白澤 利基	中澤	山岳エリアでのE-bikeツアーの安全対策

氏名	ゼミ	卒業研究テーマ
三林 奈央	室谷	旧ジャーナリズムの差別化戦略
若林 龍信	室谷	将棋AIと学習の関連性
大滝 陵斗	室谷	画像分類による国・地域の識別について
村上 晴太郎	室谷	ライブコンサートなどの大規模イベントがもたらす経済波及効果と地域活性化の関係についての研究
井口 瑛敦	室谷	メルカリデータセットを用いたビッグデータ分析
木村 翔瑛	室谷	テキストマイニングを用いたeスポーツの勝因分析―ゲームタイトル[VALORANT]―
林 颯人	室谷	J-popの今と昔の特徴分析
小林 大和	室谷	メルカリデータに見るコメントの効果
地濃 郁人	室谷	インスタグラムとディズニーのブランド戦略
山口 和威	小林	AIによる曲カバ― 音声変換技術の実験と応用
根橋 駿輝	小林	ヒップホップにおけるサンプリングの文化について
原 拓未	小林	集客から見る、飲食店のあり方
松田 康希	小林	画像生成AIのモデル特性
小林 美月	小林	麻雀のルールに基づく戦略方法について
中村 龍斗	小林	
小澤 優花	小林	生成 AI が私達の生活にもたらす影響とビジネス面での活用
黒木 愛夢	小林	
青山 円花	小林	プロンプトとAI画像生成の傾向
安藤 駿生	三浦	海外転勤の経験によって取得できる能力とは
池田 清隆	三浦	若年女性のロールモデル
片井 奏太	三浦	「職場」におけるダイバーシティ&インクルージョンの重要性―LGBTQ+に着目して―
唐木 流華	三浦	コロナ禍におけるパレリーナの行動
古林 駿弥	三浦	お笑い芸人のキャリア形成
櫻井 玲	三浦	宿泊業における新卒社員の高着率向上に向けた探求
佐藤 綾香	三浦	バスケットボール(B.LEAGUE)選手のプロフェッショナルキャリア
高柳 遥菜	三浦	自動車販売業で働く女性の就業意欲に影響する要因
吉澤 宏翔	三浦	保育現場における離職理由―私営・公営保育士の比較―
浅田 翔	田中(正)	読者を増やすための出版業界が取るべき戦略
竹野 大輝	田中(正)	衰退しつつある祭りの現状について(波田町の場合)
花村 佳人	田中(正)	魅力的なコンビニエンスストアについて
米倉 優斗	田中(正)	飲食店の顧客満足度向上について
一ノ瀬 博	兼村	スーパーにとつてのPBの意味―デリシャ・ツルヤ・西友・パルコの比較から―
大住 望	兼村	障がい者と働くには―北川製菓を事例として―
平野 早紀	兼村	今後、期待される復興の現状と課題―塩尻市企業の事例から―
本田 武蔵	兼村	PMIにおける人の問題
山岸 樹	兼村	地域企業のDX導入の課題と対応策―岡谷酸素を事例として―
青木 海斗	清水	長野県の農業における現状と課題
大岩 音寧	清水	現代的な益壽による地域活性化―地域と中学校における取り組みを中心に―
神林 優太	清水	データとアンケートから見る長野市と松本市の住みやすさ
小古 優希	清水	
小林 大	清水	伊那市における地域福祉の現状と課題―社会に根ざした地域福祉とは?―
小澤 俊也	清水	工作機械に関する多面的考察
中林 優太	清水	上田市の製造業の現状と課題
増澤 弓月	清水	ブランド構築と私の事業計画
横山 大地	清水	日本国内における製造業の動向と分析

氏名	ゼミ	卒業研究テーマ
奥原 軍	中澤	若い世代の観光客が自然観光に求めるもの―乗鞍高原の事例調査をもとに―
鎌倉 真明	中澤	
城取 直樹	中澤	認知症患者の自然観光実現に向けて―乗鞍高原を例に―
奥原 陸斗	中澤	アウトドアの日常性・非日常性と連続性における考察
大野 均平	中澤	新潟県のラーメン食文化と観光
松田 優	中澤	タイムパフォーマンス・倍速視聴にみる青少年社会の変化
木村 勇	山根	Jリーグにおける新しいスタジアムのあり方
丸山虎太郎	山根	
青木帆奈美	山根	
新家より	山根	
井出 美咲	山根	ディズニーリゾート成長戦略
普明 幹葉	山根	
山岸 加奈	山根	
青瀬 かの	益山	食べ歩きによる商店街活性化の実現可能性
有賀 香乃	益山	菅平高原のスポーツツーリズムの現状と課題:ラグビーに着目して
池亀 凛	益山	SNS上における若者の自己開示
石田 蒼	益山	スキー場利用における若者の交通手段の選択
岡澤穂乃	益山	松本市におけるカフェの役割とは
小西 真未	益山	女性アイドルを応援する女性ファンの心理に関する一考察
寺田 仁	益山	プロ野球球団の成績と年間球場来場者数との関連性に関する一考察
松原 花奈	益山	松本市中心市街地における若者にとつての快適な街のあり方を考える
村松 諒	益山	スターバックスコーヒーはなぜ今も輝き続けているのか?
マコト 諒佳	益山	外国人観光客対応における観光案内所の役割とは―一松本観光案内所の事例より―
横内 哉海	益山	Z世代に「パーソナライズ」した旅の情報発信とは
三島 奈緒	益山	ディズニー映画「アラジン」のアニメーション版と実写リメイク版をジェンダーステレオタイプの観点から比較する
金児 暁	丸山	長野県における土産物産品の広域化とご当地性
須藤 颯太	丸山	長野県におけるキャンプ場の価格設定―一キャンプ場経営者へのインタビューに基づいて―
立木 彩楓	丸山	長野県におけるクラフト・マルシェの地域特性
田中 翔斗	丸山	松本市におけるライブハウス・ライブバーの地域的展開―一東園・シマシマ・タピシロの事例から―
田中 もも	丸山	社会情勢を投影する「東京を揺るがす音楽」の変遷
澤谷 琉生	丸山	地域福祉の在り方に向けた一考察―ふっくらフェスティバル2023を事例として―
丹羽 祐介	丸山	浅間温泉におけるインバウンド対応の現状と課題
宮澤 晃未	丸山	長野県山ノ内町夜間瀬地区におけるスポーツ合宿地の形成と変容
宮本 暁	丸山	温泉観光地におけるターゲット層とそれに応じた取り組みの機能
横山 優陽	丸山	長野県におけるライブハウス経営の地域的特色―長野市・上田市のライブハウスを中心に―
吉田 紋	丸山	観光マップのデザイン性とその傾向―一長野県内の主要観光地を対象として―
郷津 壮生	丸山	大町市・大町名店街における業種構成の変遷と商業機能の特性
石澤 祐樹	丸山	アニメ聖地巡礼を巡る地域内の温度差―一岐阜県白川村の行政と民間事業者の事例から―

人間健康学部

代表者のみ口頭発表をし、その他全員がポスターにて発表を行いました。

健康栄養学科 (口頭発表:13題、ポスター発表:35題)

氏名	ゼミ	卒業研究テーマ
坂戸 太一		
高橋 柚月	平 田	大学生における昼食行動と精神的健康度との関連
高山 伴成		
青山 朋未	廣 田	保育園児の母親の食態度と子供の食意識・食習慣との関連
田嶋 梨花	青 木	オーラルフレイルの基礎知識と予防レシピ-生成AIの利用-
坂本 愛来		
中村 天音	弘 田	米国のインテグレイティブ・イーティング・スコア(IES2)でわかるダイエット歴と心の在り方の関係性
丸山 智加		
唐 澤 由 奈	長谷川	大学生男子バスケットボール選手の栄養状態の現状と課題
久保田乃愛	成 瀬	高校生の間食の実態調査及び教育媒体の作成
勝野 伶香		
矢島 結	石 原	揚げ物調理中の音とおいしさの関係
四方田果那江		

氏名	ゼミ	卒業研究テーマ
森下 優希	高 木	Curcuminによる糖新生系酵素PEPCK 遺伝子の転写抑制機構の解析
久保 田 慧	木 藤	不飽和脂肪酸は腸内細菌を介してショウジョウバエの行動に影響を与える
松原 夏美	福 島	ファット・アクセプト運動から考える多様性
大田垣咲良	矢 内	食品ロス削減に向けたおからのお菓子開発
北山虎太郎	山 田	SHARP family によるラットPEPCK 遺伝子の転写抑制機構の解析
登坂 翔太		
青木 愛		
窪田 友彦	沖 嶋	ω-5 グリアジンを持たないスペルト小麦について (第3報)
和田 夏実		一普通小麦を使った料理との物性の比較
三ツ矢知可子		

スポーツ健康学科 (口頭発表:14題、ポスター発表:86題)

氏名	ゼミ	卒業研究テーマ
堀口 世奈	新 井	サッカーゴールを運ぶ理想の人数とは
菅沼 汐織	根 本	中高齢者を対象とした健康づくり教室の展開方法についての検討 ~あづみのピンキリ体操教室の場合~
小山 礼華	中島節	大学生における月経に対する認識の性差から考える学校性教育の課題
中原 康介	上 野	日本のワークライフバランスの現状とオランダに学ぶ点
田中 愛	伊 藤	月経とコンディションの関係について ~大学陸上競技部女子選手を対象として~
竹田原幸冬	本 間	eスポーツの実態とスポーツとの概念的関係性
村山ひかり	吉 田	小学生走り幅跳びにおける着地動作の変容と教材の検討

氏名	ゼミ	卒業研究テーマ
松本裕二郎	田 邊	運動が恐怖症発症に及ぼす影響について
坪内 宏志	中島弘	中学生の視力低下の要因分析
奥野 有沙	齊 藤	"じゃんけん"に関する心理学的考察
篠崎 智貴	河 野	骨格筋における新規運動効果"エビジェネティクス"はどのように起こっているのか?
大郷佳巳斗	山 本	大学男子陸上競技者の等速性下肢関節伸展屈曲筋力が立ち五段跳び能力に与える影響
網野 裕介	丸 山	今後の日本の熱中症と新たな対策について ~テニス経験者の視点から~
山浦 秀明	岩 間	トラック競技におけるスタート時の声掛けは加速に影響を与えているか

教育学部

代表者のみ口頭発表をし、その他全員がポスターにて発表を行いました。

学校教育学科 (口頭発表:13題、ポスター発表:68題)

氏名	ゼミ	卒業研究テーマ
小澤 未歩	藤 原	中学校英語教科書における語彙と題材の関係に関する研究
尾形 実咲	和 田	中学校外国語科ライティング指導におけるディスコースマーカの使用を促すアクティビティの一提案
林 実玲	大 石	日本における国際教育の研究 ~外国語教材に見られる学習項目と内容に関する一提案~
横山 桐子	安 藤	視覚障害児の音楽教育に関する一考察 ~器楽活動を中心に~
大澤 翔	澤 柿	小学校理科における生物多様性に関する指導法の在り方に関する一考察
福島 涼	樋 口	視覚障害者の情報アクセシビリティ向上に関する考察
中澤日向子	岸 田	学校教育におけるソーシャルスキルトレーニングの可能性 ~SSTIに関する大学生の認識調査から~
折橋 慶太	海 沼	教育学部に在籍する学生の教職志望動機と授業エンゲージメント・実習エンゲージメントの関連

氏名	ゼミ	卒業研究テーマ
江間 千裕	大 蔵	図書館のレファレンスサービス利用の現状とその向上のための館種間比較
奥原 一輝	秋 田	なぜ疑問の有効性に関する検証:小学校社会科授業第6学年「世界の未来と日本の役割」における知識に着目した授業分析
白井 智哉	上 月	読者反応理論に基づいた文学的文章指導の検討 ~「海の命」の実践を通して~
福永あずさ	濱 田	「みんなが楽しい体育とインクルーシブ教育」 ~スポーツをつくる」授業検討から~
小野 綾乃	佐 藤	小学校第6学年分数の乗除法の指導に関する研究 ~「分数÷分数」の立式の理由と解決に焦点を当てて~

松商短期大学部

代表者のみ口頭発表を行いました。

商学科 ■ 経営情報学科 (口頭発表:4題)

氏名	ゼミ	卒業研究テーマ
木下 未悠	飯 塚	課金の実状と問題点の考察
原 郁佳梨	小 澤	ネパールの結婚式
小岩 麗美		
北沢あいり	廣 瀬	ステッキのオリジナルデザイン~世界に一つだけの杖~
原 朱里		

氏名	ゼミ	卒業研究テーマ
良波 大希	山 添	2023アウトキャンパス・スタディー実施報告
上條 りる		

※順不同

研究成果はポスターでも発表が行われました

健康栄養学科、スポーツ健康学科、学校教育学科では、発表会の同日に、講義室や体育館を活用してポスターによる発表も行いました。会場内の各所にて自分の研究を説明する4年生の

姿や、興味がある研究の話をも積極的に聴く在学生の姿が見られ、非常に活気あるポスター発表となりました。



健康栄養学科



スポーツ健康学科



学校教育学科

不足しがちな野菜とたんぱく質が同時に摂取できるサラダ 新商品完成発表会を実施

蒼穹150号にて、株式会社アリシアフーズ(旧ピククルスコーポレーション長野)と本学健康栄養学科の管理栄養士(監修)がコラボレーションし、商品開発した「1/3日分の野菜・たんぱく質サラダ」のご紹介をさせていただきましたが、今回、消費者の方に手軽に手に取っていただけるように、サラダをリニューアルし商品化させました。蒸し鶏と大豆ミートで動物性と植物性の両方のたんぱ

く質を同時に摂取できるように、栄養素は維持しつつも価格面を見直し、ドレッシングもサラダと合うような味付けに改良しました。

3月7日に本学で新商品完成発表会を行い、商品説明と当日参加された報道各社の方に試食をしていただきました。学内教職員にも試食してもらい、皆さんから好評の声をいただいています。県内、近



隣県のスーパーで取り扱いが予定されています。見た目と味にこだわった栄養満点のサラダをぜひ一度ご賞味ください。

質的研究と量的研究を含む幅広い研究内容 第12回教員研究発表会を開催

2月19日、20日の2日間、第12回教員研究発表会が開催されました。本会は、学内の研究助成費を獲得した教員と希望する教員により研究成果を発表するものです。本年度は、26名の教員から27演題があり

ました。研究分野は人文・社会科学分野から自然科学分野まで、基礎的研究から実践的研究まで、質的研究と量的研究を含む幅広いものでした。研究は、異分野が接近・融合したときに大きく発展することがよくあ

研究推進委員長
大学院健康科学研究科長・健康栄養学科
教授 山田 一哉

ります。したがって、研究発表に関して、専門分野の人だけではなく、門外漢の人からの質問等を受けたことで新たな発想が生まれ、今後の研究の展開につながることを期待されます。

発表内容一覧 (順不同)

研究課題	発表者
急増する閉経前乳がん発症を背景として女子大学生における食習慣とエストロゲン過剰分泌の関連性の検討	大学院健康科学研究科 / 健康栄養学科 青木 雄次
女子学生におけるダイエット歴とインテュイティブ・イーティング・スコア(IES2)の関連性	大学院健康科学研究科 / 健康栄養学科 弘田 量二
加齢に伴う骨格筋ヒストンH3.3増加の生物学的意義追究	大学院健康科学研究科 / スポーツ健康学科 河野 史倫
ブロックチェーンを取り入れたサプライチェーン・コーディネーションの一考察	大学院総合経営研究科 / 総合経営学科 田中 正敏
有限温度実時間形式の量子計算	大学院総合経営研究科 / 総合経営学科 室谷 心
組織のライフサイクル概念とテキストマイニングを用いた組織変革研究	総合経営学科 古田 成志
令和6年能登半島地震 被災地調査報告(速報) ~長野県が学ぶべき防災の教訓~	観光ホスピタリティ学科(地域防災科学研究所) 入江 さやか
持続可能な観光における来訪者モニタリング手法の研究 ~中部山岳国立公園上高地を事例に~	観光ホスピタリティ学科 中澤 朋代
旧安曇村における地域コミュニティネットワークの基礎調査	観光ホスピタリティ学科 中澤 朋代
教職課程におけるICT活用指導力の育成とその課題	観光ホスピタリティ学科(教職センター) 後小路 正人
高脂肪食によって誘導されるエクソソームの解析と微量必須元素セレンを誘導するタンパク質の解析	健康栄養学科 黒川 優
保育所給食が給食を食べる子どもおよび家庭に及ぼす影響	健康栄養学科 成瀬 祐子
メタゲノム解析によるワインの香味を決定づける発酵微生物群の解明	健康栄養学科 浅野 公介
自分が調理できる料理のレベルによる、料理に対する“簡単さ”のとらえ方の違い	健康栄養学科 石澤 美代子
教職志望学生のストレスに強い個人特性に関する基礎的研究	スポーツ健康学科(教職センター) 吉原 寛
運動遊び介入が幼児の運動能力に及ぼす影響 ~投能力を中心として~	スポーツ健康学科 中島 弘毅
未就学児の身体アライメント調査報告	スポーツ健康学科 伊藤 真之助
小学校走り幅跳びの踏切動作習得に関する実践研究	スポーツ健康学科 吉田 陽平
男女同権教育は小学生の社会的平等意識を改善するか:潜在連想テストを用いた検証	学校教育学科 秋田 真
SDGs関連教材の試作・開発 ~地域素材及び極域素材の教材化に向けて~	学校教育学科 澤柿 教淳
明治期から大正期における唱歌・童謡・わらべうた~日本の「うた」に関する史的考察~	学校教育学科 安藤 江里
多世代交流型の居場所づくりに関する研究 ~反抑圧的ソーシャルワークの視点から~	学校教育学科 大蔵 真由美
子どもの割合に関する研究 ~子どものインフォーマルな知識に着目して~	学校教育学科 佐藤 茂太郎
先人の生き方を考える自作の郷土資料の活用 ~小学校道徳科授業を通して~	学校教育学科 松原 好広
社会的達成目標の構造とその特徴の検討	学校教育学科 海沼 亮
学習者の自己内対話に機能する教師の身体性 ~芦田恵之助の「読み方教授」を手がかりに~	学校教育学科 上月 康弘
地域金融機関の将来のあり方	松商短期大学部(経営情報学科) 飯塚 徹

令和6年能登半島地震の被災地を調査して —長野県が学ぶべき防災の教訓—

地域防災科学研究所・観光ホスピタリティ学科 教授 入江 さやか

1月1日に発生した「令和6年能登半島地震」では、死者241人（災害関連死15人含む）、住家被害10万8,479棟という甚大な被害が生じ、今も8,000人以上が避難所での生活を余儀なくされています（3月15日現在）。

道路状況が改善してきた2月3・4日、山梨大学などの研究者とともに石川県輪島市、珠洲市などで被害調査を行い、2月20日に学内で開催された研究発表会で報告しました。2月中旬から1か月かけて、東京大学などと共同で、避難所で生活する被災者を対象にアンケート調査を行いました。アンケートは対面で行い、地震発生時の避難行動や、被災後の情報入手方法、避難所の生活環境などについて被災者の生の声を聞き取りました。

能登半島地震を起こしたのは、陸から海底にかけて延びる

「活断層」でした。長野県にも「糸魚川—静岡構造線断層帯」を筆頭に、数多くの活断層が存在しています。また、今回は中山間地などで多くの集落が孤立しました。内閣府調査（2013年）では、長野県内には災害時に孤立する可能性のある集落が1163か所あり、全国で最多です（石川県は179か所）。

政府のガイドラインでは、避難所の運営は原則として被災者自身で行うことになっ

ていますが、現地の避難所には高齢者が多く、外部からの支援が不可欠です。今回の地震では木造住宅の倒壊で多くの命が失われましたが、長野県の住宅の耐震化率は83%（2018年）で、全国平均（87%）を下回っていることも忘れてはなりません。

能登半島地震の被災地に心を寄せるとともに、私たちはその被害を「わがごと」として受け止め、家庭や地域での防災対策を進めていかなければならないと思います。



石川県珠洲市宝立地区の木造住宅被害（2024年2月4日）



3メートル以上隆起した輪島市の漁港 海底が露出している（2月3日）

避難所の空気環境改善のため 空気清浄機を設置

大学院健康科学研究科・健康栄養学科 教授 弘田 量二

2月7日、日本予防医学会の能登半島地震災害支援の一環として、石川県羽咋郡の志賀町に調査と支援活動を行ってきました。中村裕之日本予防医学会先遣隊団長を中心に、志賀町健康づくり推進協議会会長、

株式会社トゥーコネクト社員、私の6名で、志賀町長と面会しました。志賀町は、中村団長が2011年から住民の健康づくり事業を実施してきた緑の深い町です。

震災から約40日が経過し、「命が助かっ

て良かった」ステージから「いままでとは違う避難先での生活」を耐えしのぐステージに移ってきました。集団生活の設備を持たない避難所においては、呼吸器感染症や生活臭の予防が大事です。今回、避難所へ空気清浄機（エアドッグ）100台の寄付と設置を行い、室内の浮遊微粒子や二酸化炭素、生活臭の測定と、保健師へのヒアリングを町内5カ所で行ってまいりました。避難所生活が長期化するにつれて、住民の心身の健康状態悪化が懸念されます。今後、珠洲、輪島市へ拡大し避難所把握を継続的に行ってまいります。活動の様子は、NHK金沢放送局も紹介されました。



この度の能登半島地震により、被災された皆さまならびにそのご家族の皆様に心よりお悔やみとお見舞いを申しあげます。一日も早い復興を衷心よりお祈り申しあげます。

地域連携活動

地域づくり考房『ゆめ』

子どもたちがつくる仮想の街「あるぷすタウン」を5年ぶりに開催！ 職業体験で社会の仕組みを学ぶ

地域づくり考房『ゆめ』で活動する学生が実行委員となり、企画・運営する「あるぷすタウン」を、2月24日・25日の2日間にかけて5年ぶりに開催しました。この企画は、松本大学に2日間だけ現れる子どもたちがつくる仮想の街で、子どもたちは職業体験等を楽しみながら、タウン内で流通する「Yume(ユーメ)」を使って社会生活を体験できるものです。仕事を体験して給料を稼ぎ、そして、稼いだYumeを使って、アカデミーで学んだり、買い物をしたりして過ごします。多くの方にご協力いただき、2日間で計22のブースを設けることができ、飲食店やウエディング、警察署など職場はさまざまでした。その中のひとつとして新聞記事を書くブースがあり、子どもたちが記者として参加者やブース出展していただいた担当者にインタビューをして、記事を完成させました。



電車ブース「ゆめ」トレン

参加した子どもたちからは、「結婚式の体験が楽しかった。もらったお金でいろいろな体験ができてよかった。最高すぎた!! もっとやって欲しい!!」「今日はお母さんの誕生日で、教えてもらったフラワーアレンジメントでお母さんにプレゼントするんです」と5年ぶりに子供たちの声が返ってきました。また、保護者の方からは「うちの子は最近学校で笑顔がなくて心配していましたが、今日は久しぶりに笑顔を見ました」「自分で働いて、そのお金を使って買い物をする楽しさを体験できて、とてもありがたかったです。さらに、親にご馳走してくれて私たちも楽しめました。」「どのブース

もとてもよく考えられていて感動しました。こんなに素敵な企画が2日間終わるのはもったいない」と好評の声をいただきました。

5年ぶりの開催に不安もありましたが、100名を超える小学生と保護者の方に参加していただき、ゆめの学生スタッフは、この企画を通して、子どもたち・地域・『ゆめ』のみんなで作り上げた「あるぷすタウン」に団結力を感じたようです。雪と寒さで過酷な2日間ではありましたが、参加者の生き活きとした様子を見ることができ、達成感を得られたのではないのでしょうか。学生スタッフ全員の気配りと成長を感じたイベントになりました。

ご来場いただいた皆さま、開催にあたりご協力いただきました関係者の皆さまに、この場をお借りして御礼申し上げます。



たご焼きブースの様子



実際に子どもたちが制作した新聞記事

(地域づくり考房『ゆめ』 専門員 倉田 吉春)



地域健康支援ステーション

2023年度の活動を振り返って

地域健康支援ステーションでは、地域住民の方々や企業・自治体等からの要望に応じて運動と栄養の両面からアプローチする健康づくり支援活動を行っています。今年度の活動において、運動面では、自治体や企業にて運動教室や体力測定を行い、住民や企業従業員の体力維持向上を目指しサポートしました。教室実施期間の前後で体力測定を行い、参加者自身の体力がどのくらい変化したのか把握していただきました。そして、日常生活でも気軽に取り入れてもらえるような運動を紹介したオリジナルの資料を使いながら、運動習慣をつけていただくための説明をしました。

栄養面では、中高齢者や企業従業員の研修としての栄養講座、その



他に栄養教育指導媒体・献立の提供・調理実習・レシピ動画配信等を通じた健康支援活動を行いました。レシピ動画は内容をまとめ、日本栄養改善学会にて成果発表をしております。来年度は、これまでの活動をさらに充実させ、より多くの皆様の健康づくり支援に邁進していきたいと思っております。(地域健康支援ステーション 健康運動指導士 小澤 菜々子)

最近の活動から

高校生合同販売会「バレンタインスイーツ」が開催されました

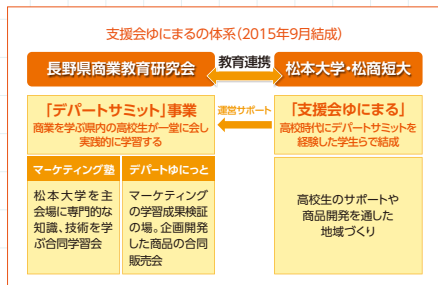
恒例となった高校生の合同販売会「バレンタインスイーツ」が、2月10日・11日にアイシティ21(山形村)で開催されました。会場では県内5校の高校生と本学短期大学部金子ゼミが参加し、バレンタインにちなんだ多くの商品を販売しました。今年度は販売会当日に参加できる高校生が減ってしまったため、本学「支援会ゆにまる」のメンバーが参加高校の一部の商品を委託販売し、売り場のPOPづくりやチラシづくりを行うなど販売会を盛り上げました。当日は好天にも恵まれ、バレン



タイン直前の週末であったため多くのお客様がスイーツを求めて賑わい、本学の学生も商品販売の対応に追われていました。実践的な販売

活動から学ぶことは多く、参加した高校生や学生は、今後の新たな活動に活かすきっかけをつくることができました。

(地域づくり考房「ゆめ」専門員 大野 整)



廣田ゼミの学生が、「3つの星レストラン・ACE弁当プロモーション事業」に携わり、チラシを制作

健康栄養学科廣田ゼミの3年生が、松本市保健福祉事務所健康づくり支援課から依頼を受けて、長野県の「3つの星レストラン・ACE弁当プ

ロモーション事業」の取材を担当しました。本事業では、長野県が「健康づくり」、「長野県産食材の利用や食文化の継承」、「食べ残しによる生ごみの発生抑制」に取り組んでいただけるお店を、「信州食育発信3つの星レストラン」として登録し、一緒に食育を進めているものです。

学生たちは、登録希望のあった飲食店に出かけて、店舗の方にインタビューをしたり、ACEメニューの料理や店内の様子を撮影し、アピール用のチラシを制作しました。担当した店舗は、「小木曾製粉所」と「Curry House ケンドーン」です。長野県のホームページで紹介されていますので、ご覧いただき、ぜひお店を訪ねてみてください。健康づくりにつながる食への関心を高めていただくきっかけになることを願っています。



信州ACEプロジェクトのInstagramでも紹介されています。こちらもあわせてご覧ください。

過去最多となる延べ150社の企業が参加 学内合同企業説明会を実施

キャリアセンター 課長 中村 礼二

2月20日から22日にかけて、学部3年生と短大1年生を対象に、本学の第一体育館にて合同企業説明会を実施しました。ここ数年はオンライン開催だったこともあり、就職活動が本格的にスタートするこの時期の合同企業説明会としては、実に5年ぶりの対面開催となりました。売り手市場といわれるなかで学生確保に苦勞をしている企業も多く、3日間にわたって過去最多となる延べ150社にご参加いただきました。



卒業生も企業側として参加

近年は、オンラインやSNSで情報収集する学生も多く、対面式の合同企業説明会を実施しても学生の参加者が少ないということが課題となっていますが、連日多くの学生が参加し、熱心に採用担当者の話に耳を傾けていました。自分が希望している企業だけでなく、選択の幅を広げようと複数の企業の説明会に参加している学生も多く見受けられました。進路に対して不安を抱いている学生や、希望する業界を絞り切れていない学生もまだまだたくさんいるため、今回の合同企業説明会を通じて様々な企業について理解を深める場を提供することができ、学生の就職支援の一助になったのではないかと感じています。ま



た、何名かの本学卒業生に企業担当者として参加していただき、先輩たちの活躍する姿を目の当たりにした学生は、今後の就職活動に対する意欲を高められたのではないかと思います。

一日3時間という限られた時間のなかでの開催でしたが、終了時刻になっても学生で賑わっている企業ブースもあり、参加企業・学生からは概ね高い評価をいただきました。学生の就職活動が滞りなく進むよう、今後も引き続き学生の就職支援に努めていきます。



義守大学の学生12名が「短期日本語プログラム」で 日本社会や文化に触れ学びを深める

国際交流センター運営委員 松商短期大学部 教授 糸井 重夫

コロナ禍で中止されていた「短期日本語プログラム」が4年ぶりに実施されました。このプログラムは、外国で日本語を学ぶ学生のスキル・アップと日本文化体験のためのプログラムで、以前は台湾や中国、

韓国や米国の学生が参加していました。今回は、台湾の義守大学で日本語を学ぶ12名の学生が参加しました。日程は1月下旬から2月上旬の2週間で、午前中は日本語の学習、午後は企業訪問や茶道などのアクティビティ、週末は市内見学やスノー・モンキー（地獄谷野猿公苑）見学などが実施されました。このプログラムを通して、義守大学の学生は日本社会や日本文化についてよ

り深く学ぶことができました。また、このプログラムには、本学の学生も日本語支援のボランティアとして参加しました。学生たちは、日本語の授業でのインタビューや、週末の市内見学などを通して台湾の学生との交流を深め、台湾という異文化を理解する良い機会を得ることができました。



台湾ビジネスを手掛ける(株)シナノ(佐久市)を訪問。観光ホスピタリティ学科卒業生の中村瑠奈さんにも協力していただきました。※上段記事の合同企業説明会にも企業担当者として参加してくれました。

修了生・卒業生652名の新たな旅立ち 2023年度学位授与式・卒業記念パーティー

3月15日、2023年度松本大学・松本大学松商短期大学部・松本大学大学院の学位授与式を挙行了いたしました。今年度は、大学院健康科学研究科(博士後期課程)、総合経営研究科(修士課程)の一期生が修了を迎え、大学院健康科学研究科5名(博士前期課程4名・博士後期課程1名)、大学院総合経営研究科修士課程4名、総合経営学部181名(総合経営学科89名・観光ホスピタリティ学科92名)、人間健康学部169名(健康栄養学科70名・スポーツ健康学科99名)、教育学部学校教育学科82名、松商短期大学部211名(商学科107名・経営情報学科104名)の計652名に菅谷昭学長より学位が授与されました。

修了生・卒業生を代表して、大学院総合経営研究科の藤田達也さんが「社会が不安定な今だからこそ、地域貢献の気持ちを忘れず、それぞれが自らの道で飛躍し続ける」と決意を述べました。また、今年度はご来賓および保護者の方々にも同席いただき、盛大な式を執り行うことができました。

さらに、学位授与式後は、ホテルブエナビスタにて松本大学同窓会主催による卒業記念パーティーが5年ぶりに開催され、ともに学生生活を過ごした仲間やお世話になった先生との時間を過ごし、会場は笑顔で満ち溢れていました。修了生・卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます！



News & Topics

資格試験速報

2年連続で全国を上回る合格率！ 「社会福祉士国家試験」結果報告

2月4日に行われた第36回社会福祉士国家試験において、本学科の学生(2024年3月卒)の合格率は64.3%(全国合格率58.1%)となり、2年連続で全国合格率を上回ることができました(昨年度本学合格率66.7%、同全国合格率44.2%)。試験に向けて努力を重ねてきた学生たちの頑張りを中心に称えたいと思います。おめでとうございます！

本学科では、社会福祉士国家資格の取得に向けて、試験対策講座をはじめ、模擬試験の実施や学習環境の確保、個別相談などきめ細やかなサポートを行っています。引き続き、学生一人ひとりの頑争りを全力で応援します。

(観光ホスピタリティ学科 准教授 今村 篤史)

「健康運動実践指導者」認定試験に合格者多数

スポーツ健康学科で取得可能な「健康運動実践指導者」は、医学的基礎知識、運動生理学の知識、健康づくりのための運動指導の知識・技能等を持ち、健康づくりを目的として作成された運動プログラムに基づいて実践指導を行うことができる人に与えられる資格です。

令和5年度の認定試験において、本学科からは20名が受験し、見事16名が合格しました。その結果、合格率は80.0%であり、全国養成大学合格率の66.5%を今年も上回ることができました。学生たちの継続的な努力と教員によるサポートにより高い合格率が達成できています。合格された皆さんおめでとうございます。なお、令和5年度の「健康運動指導士」認定試験の結果は4月下旬に発表となりますので、次号でお知らせいたします。

(スポーツ健康学科 准教授 田邊 愛子)

健康栄養学科4年生が 第38回管理栄養士国家試験を受験

3月3日、午前10時から全国9都道府県14会場で、第38回管理栄養士国家試験が実施されました。健康栄養学科では、4年生(14期生)58名が受験し、内56名(2名は別会場)が松本大学発の管理栄養士国家試験バスツアーで受験会場の中京大学名古屋キャンパスに向かいました。このバスツアーは、本学で長く続く取り組みのひとつで、担当教員が引率して試験会場まで見送り、受験生とともに松本まで帰ってきます。試験前日の出発には、多くの教員も見送りに集まり、受験生も4年間を共にした教員をみて、不安を和らげて試験



会場へ向かえたことと思います。

合格発表は、3月29日です。受験を終えた14期生の学生は一区切りでしたが、次年度以降も多くの在校生が受験を控えています。引き続き、1名でも多くの管理栄養士を輩出できるよう学生教育を努めて参ります。

(健康栄養学科 専任講師 長谷川 尋之)

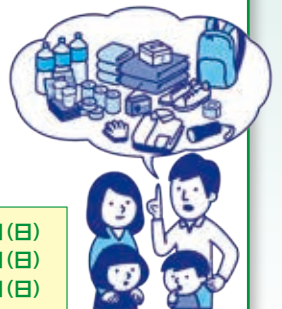
2024年度 「松本大学防災士養成研修講座」のご案内

東日本大震災の被災地支援を起点に、そこで得られた知見や経験則を活かし、本学において、2014年度からNPO法人日本防災士機構の認定を受けて「防災士養成研修講座」を開催しています。また2021年度には、防災・減災に関する教育や研究の拠点となる機関として「松本大学地域防災科学研究所」を設立し、地域に貢献できる人材の養成や支援活動を行っております。

2023年度の本講座では、約280名の方に受講いただきました。2024年度の開催予定日は以下の通りです。お申し込みについては、別途本学ホームページでご案内させていただきますので、ご確認ください。

開催予定日

第1回	6月29日(土)・30日(日)
第2回	10月26日(土)・27日(日)
第3回	3月8日(土)・9日(日)



クラブ活動情報

硬式野球部

下記の日程で春季1部リーグ戦が開催されます。ご声援のほど、よろしくお願いいたします。

■関甲新学生野球連盟 春季1部リーグ戦の日程

節	月	日	曜	対戦カード	開始時間	会場
第1節	4	6	土	松本大学 — 新潟医療福祉大学	13:00	白鷲大学野球場
第2節	4	7	日	平成国際大学 — 松本大学	10:00	上武大学野球場
第3節	4	13	土	山梨学院大学 — 松本大学	12:00	山梨学院大学川田野球場
第4節	4	14	日	松本大学 — 新潟大学	12:00	松本大学野球場
第5節	4	20	土	作新学院大学 — 松本大学	12:00	松本大学野球場
第6節	4	21	日	松本大学 — 上武大学	13:00	上武大学野球場
第7節	4	27	土	白鷲大学 — 松本大学	10:00	白鷲大学野球場
第8節	4	28	日	松本大学 — 常磐大学	13:00	山梨学院大学川田野球場
第9節	5	11	土	松本大学 — 関東学園大学	12:00	松本大学野球場

※日程・会場は、都合により変更となる場合があります。

男子サッカー部

下記の日程で前期1部リーグ戦が開催されます。ご声援のほど、よろしくお願いいたします。

■北信越大学サッカーリーグ戦 前期1部リーグ戦の日程

節	月	日	曜	対戦カード	開始時間	会場
第1節	4	6	土	松本大学 — 金沢大学	10:00	松本大学
第2節	4	13	土	北陸大学 — 松本大学	11:00	北陸大学Football Park
第3節	4	27	土	松本大学 — 新潟経営大学	10:00	松本大学
第4節	5	18	土	松本大学 — 信州大学	10:00	松本大学
第5節	6	1	土	金沢学院大学 — 松本大学	10:30	石川県サッカー場(観上)
第6節	6	8	土	新潟産業大学 — 松本大学	10:00	刈羽びあパーク
第7節	6	15	土	松本大学 — 新潟医療福祉大学	10:00	松本大学

※日程・会場が変更になる場合があります。

アンサンブルsolae

松本市音楽文化ホールにて第5回記念演奏会を開催 クラブユニフォームも初披露

アンサンブルsolaeは県内の各種合唱イベント・コンクールへの参加や、年1回の定期演奏会開催を目標に活動しています。今年度も2月24日に松本市音楽文化ホールメインホールにて第5回記念演奏会を

開催することができました。第5回を記念する企画としてsolaeのOG・OBの先輩をお迎えして合同演奏を行いました。ほかにも幅広い年代の方が楽しめるようなステージや信長真富作曲「等圧線」という難しい曲集に挑戦したステージなど、趣向を凝らした演奏会となりました。松本大学同窓会「学生活動支援金」のご寄付より今年度購入させていただいたクラブユニフォームを初めてお披露目することもでき、大変ありがたく思います。おかげさまで非常に多数の地域のお客様にご来場いただき、終演後の温かい言葉や拍手にも胸が熱くなりました。ご支援いただいた皆様に感謝申し上げます。solaeの歌声をもっと多くの方々に届けられるようこれからも頑張ります!

(アンサンブルsolae 部長 大蔵 真由美)



女子ソフトボール部

2年間部員を支えてくれた石垣コーチからのメッセージ

本学卒業生の石垣亜郷さん(スポーツ健康学科2021年3月卒業)は、2022年4月より2年間、女子ソフトボール部のコーチとして部員を

支えてくれました。今年度をもって退職となる石垣さんよりメッセージをいただきましたので、掲載いたします。

2年間を通して

松本大学を卒業し、社会人2年目に松本大学女子ソフトボール部のコーチとして戻って来ました。その中でたくさんの経験や学びをさせていただきました。学生の頃には知ることのできなかつた事、コーチとしての立場と責任、そして自分にその役割ができるのか不安がありました。しかし、2年間頑張れたのは周りの温かさがあったからこそだと思っています。何かあれば相談に乗っていただき、事務仕事で分からない事があればすぐに教えていただいたり、困っていればすぐにアドバイスをもらえたりと、たくさん支えていただきました。このような温かい環境で働くことができ、とても幸せな2年間でした。本当にありがとうございました。

(女子ソフトボール部コーチ 石垣 亜郷)



退職のあいさつ

松本大学の発展を願って

大学院総合経営研究科・観光ホスピタリティ学科
地域防災科学研究所 所長・教授 木村 晴壽



1991(平成3)年に松商短大へ赴任してから30年以上が経ちました。日々の授業・研究活動・野球部の活動(短大時代は準硬式、大学では硬式)など、夢中で毎日を通すうちのあっという間の30年でした。「光陰矢のごとし」を実感しています。

松本大学の立ち上げに関わった一員としてこれまでは、大学の発展・充実を願って微力を尽くすこともできましたが、これからは大学のファンとして応援することになります。松本大学の各学部と大学院が発展されますよう、心より祈っております。

春宵多旅夢

観光ホスピタリティ学科 教授 山根 宏文



旅行会社に26年間勤務してその後、松本大学に赴任して21年間経ちました。旅行会社時代には200回以上の海外渡航歴、支店長、マーケティング部長としての経験を活かし、観光に関する科目を担当するつもりでした。しかし、これらの知識や経験はあまり役に立たず、それより自分にとって専門ではない日本文化、芸術文化を担当して視野が広がりました。生きていくための大切な文化と芸術、それらの本質を知り、学生たちに伝えられたこと。これが一番うれしく、充実感や幸福感がありました。

新村に住み、美しい北アルプスの山々を眺め、野菜を作り、田園を歩き、地域住民と雑談しながらの毎日の通勤。この21年間で知り合った人は名刺を整理すると約2千人います。これらの人や地に別れを告げ関西に戻るのが今はとてもつらいです。

食分野における “幸せづくりのひと”づくり

大学院健康科学研究科・健康栄養学科
教授 廣田 直子



松本大学初代学長の中野和朗先生は、本学の基本理念である「地域貢献」を「“幸せづくりのひと”づくり」と表現されました。2007年開設の人間健康学部教授として設置準備室時と合わせて17年半、この言葉は私の指針でした。地域の方々の支援をいただき、食に関わる“幸せづくりのひと”として巣立っていった卒業生の活躍が私の誇りです。地方大学にとって難しい時代ですが、この理念にそった学部・学科の発展を願っております。お世話になりました皆様に深謝いたします。

教員を養成する喜び

学校教育学科 教授 岸田 幸弘



教育学部新設の前年度から松本大学にお世話になりました。教育学部学科の運営や全学教職センターの任務を通して、教員時代から希望していた「教員の養成・育成」というやりがいのある仕事に携わることができました。今年は4期生が卒業しますが、学校現場から「松大の卒業生が頑張っているよ」という声を聞くと、難題山積の学校教育に期待する気持ちが大きくなります。今後の教育学部、松本大学の発展を祈念しております。

引き続き非常勤教員として お世話になります

観光ホスピタリティ学科 准教授 中澤 朋代



専任教員として18年間の節目にあたり、お世話になった多くの関係者の皆様に心より感謝申し上げます。自然体験活動事業者からの転職で、「地域立大学」として多様な価値観が交差する学び舎を舞台に、アウトキャンパススタディをはじめ学科の特色を模索し、同僚の先生方や学生から学ぶ日々でした。コロナ禍で急変した家庭の事情で、非常勤教員へと立場は変わりますが、学科立ち上げから今日に至る想いは変わりません。松本・高山にて新たな挑戦です。

謝辞

大学院総合経営研究科・総合経営学科
専任講師 佐藤 嘉晃



在職中は公私にわたり教職員の皆さまに大変お世話になりました。心から感謝申し上げます。さて、真偽不明の情報が溢れ、錯綜する社会情勢において、いま私たちには「敢えて賢くある」ことが以前にも増して求められているように思います。松本大学で優れた学生たちと賢くある姿勢を追求しながら過ごした日々は、私にとってかけがえのない貴重な経験となりました。共に学んだ学生たちが混沌とした社会を磨かれた知性で切りひらいていく姿が目に見えます。

退職に際してお礼

総合経営学科 専任講師 三浦 友里恵



在職中、皆様には大変お世話になりましたこと、この場をお借りして感謝申し上げます。大学での仕事にも長野県の地域にも不慣れな状況で、何かとご迷惑をおかけしたことと存じますが、教職員の皆さまはもちろん、学生から学ばせてもらうことの多い2年間でした。今後、松本大学や学生の方々も益々ご発展されますよう、心より祈念しております。

松本大学への感謝

大学院総合経営研究科・観光ホスピタリティ学科
専任講師 田開 寛太郎



6年間のご支援とご指導に深く感謝いたします。大学院を修了して、初めての職場である松本大学で、たくさんのごことを学ばせていただきました。本当にありがとうございました。新たな挑戦を求め、この場を離れることになりましたが、これまでの経験を大切に、精進していきます。お世話になったすべての皆様に心より御礼申し上げ、松本大学の今後のさらなる発展をご祈念いたします。

地域連携・持続可能な 食環境をかたちに

健康栄養学科 助手 水野 尚子



地域で培った専門的知識を松本大学において、さらに展開させていただきました。地域と連携しつつ経験を重ねることで健康に導くためには食の環境を整えることが必要と感じ、具体的なかたちで特許取得、商標登録に至ることになりました。これもひとえに松本大学、教職員の方々のご理解とご協力の賜物と感謝いたします。また学生と共に地域での活動を実践できたことは深い思い出となりました。長きにわたり大変お世話になりました。お礼申し上げます。



OPEN CAMPUS

MATSUMOTO UNIVERSITY & MATSUSHO JUNIOR COLLEGE
2024



POINT 1 未来の自分を探しに行こう。

オープンキャンパス全日程

4.14 日
午前のみ

5.19 日
午前のみ

6.16 日
午前のみ

7.28 日
終日

8.8 木
終日

8.24 土
終日

9.7 土
午前のみ

9.21 土
午前のみ

① 各日入退場自由

Matsu.
navi

みなさんと大学・短大の
架け橋となれるよう
私たちがご案内します



何でも
お気軽にご相談ください。
みなさんのご参加
お待ちしております。

特別企画 高校生のための授業公開日

高校生向けの授業公開イベントです。実際に行われている授業を見学いただけます。授業の雰囲気や進路選択の参考に。ランチ体験やキャンパスツアーも企画。保護者の方もぜひご参加ください。



開催時間

午前のみ 10:00~14:00 (受付9:30から)

終日 10:00~15:00 (受付9:30から)



アクセス

無料往復シャトルバスを運行

松本駅(アルプス口) 上田駅(温泉口) 長野駅(東口)
飯田駅 伊那(上伊那農業高校前)

終日開催は、上越・甲府からも運行予定。
時刻表など詳細はホームページをご確認ください。

お車でお越しの方は 学生駐車場をご利用下さい

事前申込制

参加申込み詳細は
下記webから！



7.15 月祝 | 10.14 月祝

POINT 2 どのイベントも自由に参加可能！ 興味があったら、参加してみよう！

学部・学科説明会

学部・学科の特徴やカリキュラム、資格取得から就職状況などを書く学部・学科ごとに説明します。

保護者向け大学説明

なぜ大学に進学するのか？松本大学ってどんな大学なのか？保護者の皆さま向けにわかりやすく説明します。

学科別ミニ講義

毎回異なるテーマで短時間の講義を実施します。大学・短大の深い学びの一端を体験し、自身の興味関心について確認してみてください。

入試相談

専門スタッフによる個別の入試相談を行います。各選抜の説明から入試準備や学生生活、経済支援制度など幅広くご相談ください。

総合型選抜説明

総合型選抜の流れやポイントなどを説明します。総合型選抜を受験される方は受講が必須です。

キャンパスツアー

施設の説明から、大学生活について学生ガイドが自信の経験を織り交ぜながら学内を案内します。

面接対策講座

面接試験への準備や対策、志願理由の考え方などをピンポイントでアドバイスします。

在学生による学生生活講座

先輩たちが身近なアドバイスや実体験を通じて、学びや生活のヒントを提供します。

部活動見学

豊富なクラブ活動が、あなたの興味や才能を引き出します。ぜひ見に来てください！

無料学食ランチ体験

ランチタイムも学生生活の大事な楽しみのひとつ！好きなものを選んで学食を体験してみよう！



編集後記

春の陽が麗らかに光り輝き出す時が近づいています。間もなく花開く桜も、麗らかに咲くという「咲麗(さきうら)」が語源という説もあります。

ここ数年の春は決して麗らかとは言えない春でした。この春巣立つ卒業生も、思い描いていた学生生活のスタートとは遠くかけ離れた春に始まり、行動を制限される春を今日まで繰り返してきました。でも、この時代を学生として学び、経験したことは大きな意味を持つはず。

さあ、かけがえのない時間を取り戻すための「新たな旅」、コロナ禍という言葉が過去のものになる「新たな時代」の待つ春へ出発です。麗らかで前途洋々たる皆さんの活躍を祈っています。

(記・入試広報室長 坂内 浩三)



〒390-1295 長野県松本市新村2095-1
TEL 0263-48-7200 FAX 0263-48-7290
www.matsumoto-u.ac.jp

